



子どもたちの笑顔

「悲劇の街ガザ」と題して二回にわたって被害の写真を紹介してきた。これらの写真は娘のリカが二月二十一日に国際ソロプチミスト下松が開いたチャリティコンサートのパネル展に送ってきたものだ。

保健プロジェクトに取り組んできた。今は拠点を東京に移し、大学院で学びながら日本国際ボランティアセンター（JVC）の一員としてパレスチナに関わり続けている。

娘の活動も、こうした善意に支えられているところが大きい。

今回、イスラエル軍のガザ撤退のあとパレスチナに行き、先日、東京に帰ってきた。

日本からイスラエルへの直行便はなく、今回はウイーン経由での往復。とにかく敵対するイスラエルに入国しなければパレスチナ自治区には行けないのだから、対等なケンカが

できるわけがない。

さらにイスラエルからガザに入るには厳重な検問を受けなければならぬ。

私が一九九六年にガザに行った際は簡単に入れたが、今は一般人は無理。娘は人道支援としてイスラエル軍に許可を申請してガザに入ることができた。

前回、昨年十一月の場合は許可が出なかつ



子どもたちの最高の笑顔

た。すべてがイスラエル側の手の内にあり、軍の許可が出てガザへの入国検査は厳しく、早くて一時間、遅い時は三時間近くか

るといふ。

さて、帰国したリカから写真が届いたが、子どもの笑顔の写真が多く、希望のようなものを感じる。子どもの笑顔は何

よりの救い、コンサート会場でのガザ・パネル展



わすか
四週間の
イスラエ
ル軍のガ
ザ攻撃で
千三百人
のパレス
チナ人が
殺され、
今もイス
ラエル軍
のガザ封
鎖は続い
ている。

しかし、エジプトへの秘密地下トンネルは一部はイスラエル軍に破壊されたもののまだ健在で、そこからいろいろな品物が入っており、街は活気が取り戻していたという。

今回の目的は現地スタッフと一緒に巡回医療に従事し、幼稚園児の健康チェックが主な

目的だったようだが、日本からの支援による栄養改善事業の牛乳やビスケットを食べる園児たちの顔は笑顔でいっぱいだ。

この笑顔がいつまでも続くことを願ってやまない。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



リカの運んだ牛乳を飲む園児たち